IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2020年9月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

産業応用部門の輝ける未来に向けて

Towards the Bright Future for Industry Application Society

電気学会 産業応用部門 部門長

村上 俊之（慶應義塾大学）

Toshiyuki Murakami (Keio University)

President, IEEJ Industry Applications Society

日頃より産業応用部門活性化のために格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。COVID-19 流行の影響で、日々の生活スタイルが大きく変わってきています。ご存じの通り、2020年度の産業応用部門大会については、残念ながらCOVID-19 感染拡大の懸念を踏まえ次年度延期の判断となりました。こうした困難な状況においてこそ、ライフスタイルが大きく変わるパラダイムシフトが必要となるのかもしれない。豊かな暮らしを支えるスマート社会の実現の一端に産業応用部門が貢献できれば大変嬉しく思います。

電気学会では1991年に部門制が正式に定着し、2021年には早くも30年目を迎えます。産業応用部門では、1987年より試行的に部門制を実施した経緯から、2021年には35回目の部門大会を、また試行期間を含めると2022年には部門設立35年目を迎えることになります。こうした産業応用部門の活動が電気学会全体にも影響していると考えられる事項を次の表にまとめてみました。

表1：電気学会における産業応用部門の発展経緯

年	事項
1986	1月より部門制試行開始
1987	産業応用部門誌創刊、特別委員会委員長：河村達雄氏
1991	5月より部門本格運用開始（部門制初代部門長：戸田孝氏）
2004	10月より電子投稿・査読システム試行開始
2006	1月より電子投稿・査読システム本格運用
2010	紙媒体論文誌廃止に伴う論文投稿料35%割引
2012	7月より部門英文誌（JIA）創刊
2012	10月より電子投稿・査読システムの新システム立上げ
2020	5月電気学会初のWeb開催（Zoom）研究会の実施
2021	産業応用部門大会35回
2022	産業応用部門35年

部門制の試行から始まり、電子投稿・査読システムの試行については学会全体にも影響した活動であり、また近年では部門英文論文誌の立ち上げや本年5月には電気学会初のWeb開催研究会が実施され、成功裏に進められました。この研究会では自動車技術会との連携も行われており、他学会との連携を推進する発端ともなりつつあります。電気

学会全体の活動へも少なからず影響を及ぼしている産業応用部門では、サステナブルな社会の構築に貢献する電気技術の情報収集・発信の場として、電気機器・パワーエレクトロニクス・制御等の基礎技術から産業・交通運輸・社会システム・家電等の広い応用分野を網羅した活動が、14の技術委員会を中心に行われています。その技術委員会の社会における位置づけを勝手ながらマッピングしてみると図1のようになると考えています。ここで、技術委員会の名称についてはアルファベットの略称記号で示していることは何卒ご容赦ください。従前より、「資源・エネルギー・食糧」、「経済発展」、「環境保全」の社会三大要素については、個々の最適化をはかって社会全体の最適化を行うことはできないという、「トリレンマ」の問題として議論されていますが、各技術委員会の主要分野で、「資源・エネルギー」や「環境保全」に関わる分野はそれほど多くないと考えております。こうした背景から、これらの領域を扱う部門や他学会との前向きな連携は重要と考えています。このような活動も意識しつつ、世界におけるグローバル化の先を見据えた環境・エネルギー技術および少子高齢化に耐え得るQOL（Quality of Life）向上による快適なスマート社会の構築に貢献できる学会活動を促したく考えています。産業応用部門を中心とした輝ける未来に向けて、会員各位への情報の場の提供を第一にした運営を目指して参りますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

図1：技術委員会の位置付け一考